

第1章 特別教育研究経費による事業の進捗状況

1. 事業の全体計画

お茶の水女子大学は、国内の国私立の伝統ある四女子大学に呼びかけ、平成14年度から、アフガニスタン女子教育復興支援のためのコンソーシアムを結成し、JICAの協力を得て、女性教員の教育研修を実施してきた。研修を通して、アフガニスタンの女子および女性のニーズが把握され、それを支援する各種のプロジェクトが本予算によって可能となった。本事業は、アフガニスタン女子教育支援を端緒としながら、開発途上国におけるトータルな女子教育支援のプログラムの開発と実施を、JICAや五女子大学コンソーシアムらの諸機関と連携しながら進めるものである。

本事業は、以下の6点を柱とした。

- 1) 女性の心に関する問題は女性でしか分かり得ない、あるいは、解決し得ないことが多い。そこで、本学の特徴を生かして、長期間戦禍にさらされた女性(未成年者を含む)に対する「心のケア」に関するプログラムを、カブール大学およびカブール教育大学と共同開発する。
- 2) アフガニスタンにおいて、タリバン政権下で教育の機会から全く疎外されていた女性に対する教育支援。特に女性教員のレベルアップを図るため、同国が直面する教育課題に沿った研修を実施する。
- 3) 女性に不足しがちな理科教育、女性の必須教養である健康・保健教育を中心に基礎教育の基盤を整備する。特に、アフガニスタンで入手しやすい素材を使用した実験が行えるような実践的な実験キットを開発し、提供する。
- 4) ベトナム等の途上国における乳幼児教育支援プログラムの作成。
- 5) 途上国における女性の社会参加を促進するため、社会教育の実態調査と社会教育プログラムを、現地大学と共同作成する。
- 6) 女子教育開発に関する援助国である、米英仏などの大学・研究所との連携を促進し、女子教育支援を国際的に推進する国際拠点を形成する。

2. 各年度の実施計画、実施状況および実施度

(1) 平成17年度

実施計画

アジア地域を中心とする他の開発途上国に対する女子教育支援の充実・発展を図るためにセミナー、ワークショップの開催。現地の状況を踏まえた上の理科教材等の出張実験指導の実施。

実施状況：

17年度は、アフガニスタンの情勢悪化が続いたため、現地調査を2回計画したがいずれも直前で取りやめとなつた。しかし、アフガニスタンや紛争地に関するセミナーに講師を招き、アフガニスタンの教育や障害者支援などの現状について情報を収集した。それを踏まえて、「心のケア」に関するマニュアルテキストの作成に関する資料収集、国内外の研究者、NGO等とのネットワークの構築などを行い、2月には国際会議「人道支援と心のケア」を開催した。理科教材は、アフガニスタンからの長期留学生と意見交換を行いながら、教材キットを作成した。これは、1月のアフガニスタン女性教員研修で研修員たちに実習指導し、帰国の際に持ち帰った。

実施度

現地調査は実施できなかつたものの、アフガニスタンや紛争地、途上国の支援に関するプロジェクトなどを着々と進めた。また、平成18、19年度に実施するはずであった、ベトナム国立大学と連携して女性の社会参加や教育の状況についての調査を前倒しして行なつた。また、アフガニスタンからの国費留学生を対象として意見交換会を実施し、日本における彼らの研究・生活環境に関するヒアリング調査とニーズ調査も行なつた。

健康教育・理科教材に関しては、第1期の教材・テキストを作成し、18年度はそれをダリ語に翻訳し、現地に輸送する段階にある。

(2) 平成18年度

実施計画

- 1) 特にポストコンフリクト地域の女性たちの「心のケア」を行なうためのテキストの修正版の作成と現地(アフガニスタン)でのワークショップの開催。
- 2) 五女子大学コンソーシアムによるアフガニスタン女性教員研修の実施。
- 3) 女性の保健教育に関する教材・テキストの作成。
- 4) 東南アジア諸国・西アフリカ諸国における幼児教育支援プログラムの作成や実施。
- 5) ベトナムにおいて、ベトナム国立大学などとの共同調査から女性の社会参加や状況についての提言を行う。
- 6) 女子教育支援に関する国内外のネットワークの構築を強化する。

実施状況

アフガニスタンのカブル大学教育心理学科の学生を対象に昨年度作成した試作テキストを基に、「心のケア」のワークショップを、本学から教員を派遣して実施した。

- ・アフガニスタンでの心のケア支援の経験を生かし、広く途上国で活用してもらうことをねらいとして、ダリ語・英語・日本語の紛争地における女性のための「心のケア」に関するチェックリストを入れたテキストを作成した。
- ・五女子大学コンソーシアムによるアフガニスタン女性教員研修の教材の製作や研修準備を行なつた。

- ・女性の保健教育に関する教材・テキストでは、昨年度のテキストをダリ語に翻訳するとともに、感染症など、女性の健康を脅かすような病気や知識などのテキストをシリーズ化している。18年度は、「食物と栄養」の英語テキストを作成した。
- ・ベトナム国立大学アジア・太平洋センターおよび大阪大学と連携して、ベトナムのコミュニティの中で女性のライフスタイル、社会参加の現状を、教育の観点から調査した。
- ・途上国における女子教育支援に関する研究会の実施。

実施度

心のケアに関するチェックリストの完成、女性の保健教育に関するテキストの作成は着々と進み、関係機関から好評であり、また途上国でも活用されている。

五女子大学コンソーシアムでは、最終年度ということもあり、事前準備に時間をかけた。用意や関係機関との連絡などで、昨年度よりも、より強い女子教育支援に関するネットワークの構築、事業の連携を確立することができた。また、アフガニスタン女性教員研修終了後における、五女子大学が連携して女子教育支援事業に関するプロジェクトの打ち合わせなども進めることができた。

アフガニスタン、カブール大学への現地調査は、治安や天候などの悪条件があったにも関わらず、18年度においては5月末に挙行することができた。また、現地で学生に対するワークショップを開催し、カウンセリングの重要性や紛争後に生じたトラウマに関する知識を広める機会となった。さらに、今後のカブール大学とお茶の水女子大学、五女子大学コンソーシアムの連携事業に関する意見交換も実施することができた。

(3) 平成19年度

実施計画

- 1) アフガニスタン等において、「心のケア」支援プロジェクトを継続して実施する。JICA始め、国内外のNGOや研究機関と連携しながら、紛争地等において心の傷を負った女性たちのために必要なケアを行なう人材を育成する。
- 2) アフガニスタンを始めとする女性のエンパワーメントに関する事業(研修など)を五女子大学コンソーシアムで連携して実施する。
- 3) 17年度から実施している保健教育のテキストを作成する。アフガニスタンはもとより、JICAやNGOと連携して、他の途上国に配布し、女性の健康に関するワークショップの開催を準備する。
- 4) ベトナム国立大学と連携して、女性の社会参加や状況に関する調査を踏まえた上でのワークショップの開催を行い、啓蒙活動及び提言を支援機関に行う。
- 5) 女子教育に関する研究、支援機関との連携を行う。欧米諸国や国連機関、各国の援助機関とのネットワークの構築を図るとともに、本学のセンターを国内における女子教育支援の拠点となるように整備していく。

6) JICAと連携し、西アフリカ諸国の幼児教育関係者研修事業を実施する。

実施状況

- ・アフガニスタンの「心のケア」支援プロジェクトでは、5月と3月の2回に分けて本学協定校であるカブール大学から心理教育学部長と若手研究者4名を招へいした。本学での心理学教育のカリキュラムの紹介を行い、カブール大学のカウンセラー養成について指導を行った。
- ・ベトナム国立大学および大阪大学の教員と、17、18年度の調査や意見交換を基に、ハノイでコミュニティ調査における女性の社会参加についてのワークショップを2007年9月に実施した。現在は、ハノイの教員と連絡を取り、今後の連携について話し合いを進めている。
- ・12月にはユネスコバンコク事務所と共に本学にてアジア地域の基礎教育分野における女子教育の課題について、各国の行政官および日本国内の研究者、援助機関関係者らを招いて国際会議を開催した。
- ・2月にはタイに本学のバンコク事務所を設立し、JSPSバンコク事務所をはじめ、タマサート大学やアジア工科大学院大学、泰日工業大学との今後の連携に関する計画について協議をバンコクにて行った。
- ・17年度から実施している保健教育のテキストの作成。19年度は「食物と栄養」のダリ語版と「水」の英語版を作成した。
- ・五女子大学コンソーシアムと連携をとり、途上国の女性支援に関するプロジェクトを実施した。五女子大学学生への途上国、アフガニスタン理解のために2回の映画祭の開催を行った。

実施度

- ・「アフガニスタンにおける心のケア支援事業」については、カブール大学心理教育学部長との連携により、前期、後期に2回に分けて研修を実施することができた。さらに、学内だけではなく、カウンセリング機関など多機関、他の大学などとも連携して、アフガニスタンにおけるカウンセリング事業に関する人材育成に貢献することができた。
- ・7月にタイで行われたユニセフやユネスコ主催の女子教育支援に関する国際会議に出席し、ユネスコバンコク事務所をはじめアジア諸国の女子教育に携わる教育行政官とのネットワークの構築も図ることができた。さらに、12月にはユネスコバンコク事務所との合同で国際会議を開催し、8カ国からの教育行政官、韓国からKorean Institute for Gender Equality Promotion and Educationの研究者、日本からはJICAや文部科学省、そして研究者を招へいしてアジア諸国の女子教育振興に関する教育政策について議論を行い、国際シンポジウムも同時に開催した。
- ・五女子大学の学生や市民に対してアフガニスタン支援についての理解を深めるために、NPOや企業と連携して映画祭の開催2回行い、100人以上の動員となり、盛況な映画祭を実施することができた。

実施計画

- 1) 17年度－19年度においてアフガニスタンで実施した、「心のケア」プロジェクトを、その経験を生かしながら、他のポストコンフリクト諸国や途上国で実施していく。「心のケア」の Training of Trainers のために作成したテキストを汎用させるものとする。
- 2) 途上国の女性のエンパワーメントや、女子の教育の向上を目指した五女子大学コンソーシアムの連携事業の強化を行なう。
- 3) 健康教育の教材および感染症などを含む教材を作成する。
- 4) ベトナムを始めとした海外の大学と、途上国の女性支援に関する研究などを含めた事業を実施する。
- 5) 女子教育・幼児教育に関する国際支援の、日本における研究拠点とする。

実施状況

- 1) 「心のケア」プロジェクトについては、カブール大学教育心理学部のカウンセリングコースを支援しており、教育学部長と連携しながら、カリキュラムの作成などについてサポートを行っている。また開発途上国、特にポストコンフリクト地域における「心のケア」の重要性と支援の必要性について、グローバル協力センターを拠点に日本国内外の援助機関に発信している。
- 2) 平成17年度から引き続いだり実施しているJICAアフガニスタン青年研修では、五女子大学コンソーシアムと連携して途上国支援事業を行っている。本年度は、研修期間中に五女子大学コンソーシアムが主催となり、ユネスコアフガニスタン事務所長、JICA専門家、国際NGO「JEN」前カブール事務所長、鳴門教育大学でアフガニスタンの教育支援に関わっている研究者を招へいし、アフガニスタン復興支援国際シンポジウムを開催し、アフガニスタンからのJICA研修員、留学生や五女子大学の教員・学生など総勢200名が参加し、アフガニスタンの復興支援活動に関する活発な意見交換を行うことができた。
- 3) 本年度は、「水」をテーマに教材を作成した。アフガニスタンで活用できるように、全てダリ語での作成であるが、絵を見ながら水と私たちの生活との関係、自然科学分野における水の意味についても詳しく述べている。この教材は、アフガニスタン大使館などに送っている。
- 4) ユネスコ・バンコク事務所および韓国の教育研究機関である両性平等教育振興院（Korean Institute of Gender Equality Promotion and Education）と連携して、アジア地域の女性教員の社会的環境と地位の改善を目指した、政策提言のための調査研究を教育行政官、各国の大学・研究機関の研究者と連携して調査を実施している。
- 5) 幼児教育では、JICA中西部アフリカ研修を実施し、JICA研修員からは活発な議論が交わされた。また、これまでの幼児教育に関する日本の知見をまとめ、さらにアフリカやアジア地域における幼児教育の実態に関する調査報告をまとめた。国際協力分野において、幼児教育で調査報告をまとめ、分析したものはこれが最初である。さらに、女子教育では、ユネスコ・バンコク事務所と連携しながら、調査分析(バングラディッシュ、カンボジア、

ラオス、モンゴル)を行うと共に、これまでの調査をまとめ、学会などに発表することにより、国際協力分野の女子教育支援の拠点形成を進めることができている。また、アジア、アフリカ、国際機関とネットワークを構築し、各地域で女子教育（初等・中等教育、高等教育）分野での連携事業の可能性を検討している。

実施度

20年度は、女子教育支援事業に特に力を注ぐことができた。ユネスコ・バンコク事務所と連携を行い、アジア地域の教育行政官および研究者ともネットワークを構築することができ、また女性教員の調査事業に関する国際会議もバンコクで開催することができた。さらに、アフガニスタン支援事業については、五女子大学との連携も進み、その支援体制についてJICAや文科省による評価も高く、連携機関も援助機関や大学だけではなく、国際NGOなどにも広がってきていている。

(5) 平成21年度

実施計画

- 1) アフガニスタンで実施した「心のケア」プロジェクトの評価調査を実施する。
- 2) 女性のための健康教育教材の評価調査。
- 3) ユネスコとの連携によるアジア地域における女子教育の向上のための支援事業の実施。
- 4) 五女子大学コンソーシアムとの連携による開発途上国地域の女性のエンパワーメント支援活動の実施。
- 5) 五女子大学コンソーシアムにおける教職員らへのアフガニスタンをはじめとする開発途上国の女性の状況を理解するための啓蒙活動の実施。
- 6) JICA事業であるアフガニスタン女子教育研修の実施。
- 7) 海外の大学との途上国女性支援のネットワークの強化。
- 8) 5年間の事業の総括および評価。

実施状況

本年度は、上記実施計画の遂行と共に本事業の5年間の総括に関わる事業を実施した。第1に、アフガニスタンで実施した「心のケア」プロジェクトの評価調査の実施に関しては、当該国の治安の問題で渡航が不可能であったため、アフガニスタンから来日した女性の教育関係者（留学生含む15名）に心のケアに関する問題や取り組みについて評価調査を行った。第2に、女性のための健康教材の評価調査に関しては、今年度は過去5年間の総括として「生命（いのち）」に関するテキストとこれまでのまとめの教材を作成し、アフガニスタン大使館やアフガニスタンからの教育関係者などに配布し、ヒアリング調査によって評価を行った。第3にユネスコとの連携によるアジア地域における女子教育の向上のための支援事業の実施は、バングラディッシュ、ラオス、カンボジア、モンゴルでの女性教員を取り巻く状況について各国の研究者、教育行政官と調査を実施し、調査研究のエンパワーメントと分析結

果から女性教員の地位向上のための政策提言に関する支援事業を行った。第4及び第5に関する開発途上国地域の女性のエンパワーメントに関する支援活動及び啓蒙活動については、7月に国連大学にて国連人口基金東京事務所とNPO法人HANDSとの連携によって国際シンポジウム「お母さんと子どものために」を実施し、学生をはじめ多くの世代の市民に途上国の女性の状況に関する情報提供と議論の場を提供することができた。第6に関しては、JICAの青年研修において、五女子大学関係者らと共に女子教育推進のための研修事業の強化に取り組んだ。第7については、ケニアの女子大学を訪れ、アフリカの高等教育分野に関する女子教育支援に関して協議すると共に、国際NGOのFAWE(アフリカ女性教育者フォーラム)とも研究・教育分野での女子教育の支援に関して議論及び今後の協力関係について検討を始めた。第8については、国際協力の専門家(教育・援助分野の研究者、国連機関、JICA関係者等)とこれまでの本事業の取り組みについて評価のためのヒアリングを行うと共に、今後の課題について話し合った。

実施度

本年度は、最終年度であったこともあり、これまでの5年間の事業や途上国の女性の状況を広く市民に理解してもらうこととこれまでの女子教育に関する調査研究を政策提言につなげることを第一の目標として取り組んだ。

その結果、国際シンポジウムでは、390名を超す出席者が途上国の女性の状況に関して関心を持ち、出席者からも高い評価を得た。

また、調査研究については、ユネスコ・バンコク事務所と合同での国際比較調査を行い、バングラディシュ、カンボジア、ラオス、モンゴルでは、教員、生徒、保護者を対象とした調査を行い、のべ300人以上のデータを取得することで女性教員の職場環境の改善の政策立案の材料となり、各国は本調査をベースとした政策を検討しているところである。2010年2月にはバンコクにおいて各国の調査結果を持ちより3日間のワークショップを行った。各国の比較検討を行うと同時に、ユネスコ関係者はもとよりバンコク在住の国際機関関係者も参加し、女性教員の置かれている各国の状況、各国共通の課題、今後の国際連携等について活発な意見交換が行われた。このワークショップを踏まえたまとめの報告はユネスコ・バンコク事務所から発行される予定である。

お茶の水女子大学 途上国における女性の支援プロジェクト



乳幼児保育支援

- ・乳幼児保育のハンドブックを途上国（マレーシア、パキスタン等）に配布
- ・幼児教育分野における途上国支援ネットワークの形成
- ・幼児教育における研修プログラムの提案



女子教育支援

- ・理科教材の開発
- ・健康・衛生教材の開発
- ・途上国女子教育の現状、支援、政策の研究



女性のための心のケア支援

- ・紛争地で虐待された女性たちの心のケアに関するマニュアル本を作成する
- ・アフガニスタン国内に女性のための「心のケアセンター」を設立する
- ・紛争地における女性を支援するための研究会を発足する